

大津企業景況調査報告書

(第54回)

平成23年 7月～ 9月期 実績

平成23年10月～12月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成23年7月～9月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	17社	85.0%
製 造 業	10社	10社	100.0%
卸 売 業	10社	10社	100.0%
小 売 業	30社	25社	83.3%
サービス業	30社	25社	83.3%
合 計	100社	87社	87.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成23年7月～9月とし、調査時点は平成23年9月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感は弱含みで推移

平成 23 年 7 月～9 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

今年 3 月の東日本大震災から約半年が経ったが、景況感は弱含みで推移している。これは大震災により寸断していたサプライチェーンが回復したことや減少していた観光客が戻ってきたこと等のプラス材料はあるものの、急激な円高進行による生産活動への影響や公共工事が低迷していること等が原因とみられる。

先行き見通しは、全体に業況はやや改善すると見込んでいる。建設業は依然厳しい状況が続くと見込んでおり、ほとんどの業種が悪化を見込んでいるが、卸売業だけが好転を見込んでいる。

□ 業況判断 DI（前年同期比）は建設業が低迷

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期は悪化して▲35 となっていたが、今四半期も▲35 と悪化が続いている。特に建設業は公共工事等の受注減少で▲50 以上の低迷が 3 四半期続いている。製造業・小売業・サービス業も悪化が続いているが、卸売業は±0 まで改善した。

□ 売上 DI（前年同期比）は卸売業を除き減少

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲34 から今四半期▲22 と減少幅が縮小した。業種別にみると、ほとんどの業種で減少が続いているが、卸売業で増加に転じた。

□ 採算 DI（前年同期比）は悪化幅がやや改善

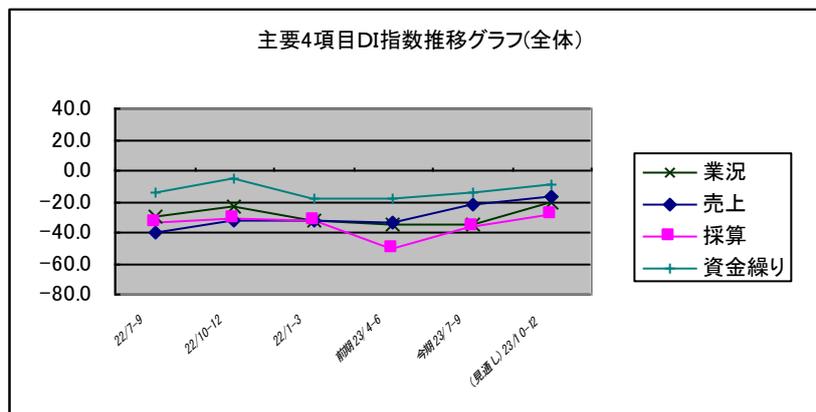
「前年同期比でみた採算(経常利益) DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲50 から今期▲36 とやや改善した。業種別にみると、ほとんどの業種で悪化が続いているが、卸売業で好転に転じた。

□ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）は悪化幅がやや改善

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲19 から今四半期▲14 とやや改善した。業種別にみると、卸売業は大幅な悪化、建設業はやや悪化し、その他の業種ではやや改善した。

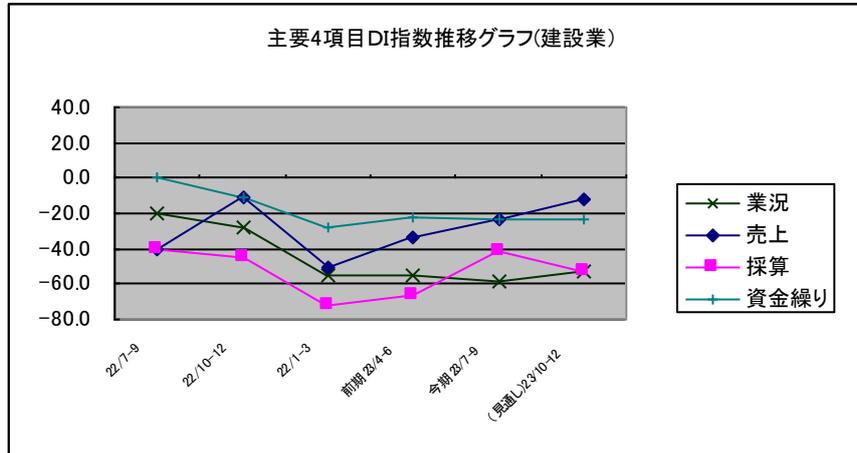
□ 従業員 DI（前年同期比）はやや過剰気味

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の▲5 が今期▲9 とやや過剰で推移。業種別にみると、建設業、製造業で過剰感があるが、他の業種は過不足なしである。



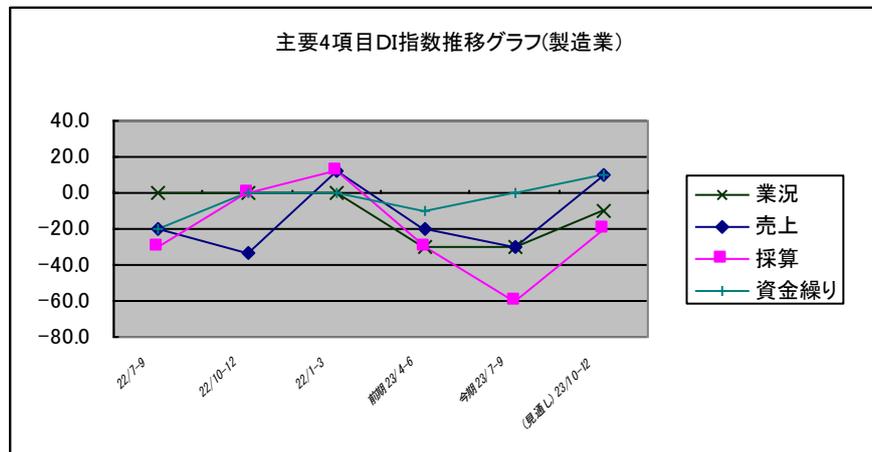
建設業

DI 指数をみると、「業況」は今四半期も▲59で3四半期連続▲50以下で厳しい状態が続いている。「売上」は前四半期の▲33から今四半期▲24と改善したが、工事減少による過当競争から「採算水準」が前四半期の▲28から今四半期▲47と赤字の企業が増えている。「従業員」は前四半期の▲17から今四半期▲29と過剰感が強まっている。「資金繰り」も前四半期の▲22から今四半期▲24と悪化が続いている。



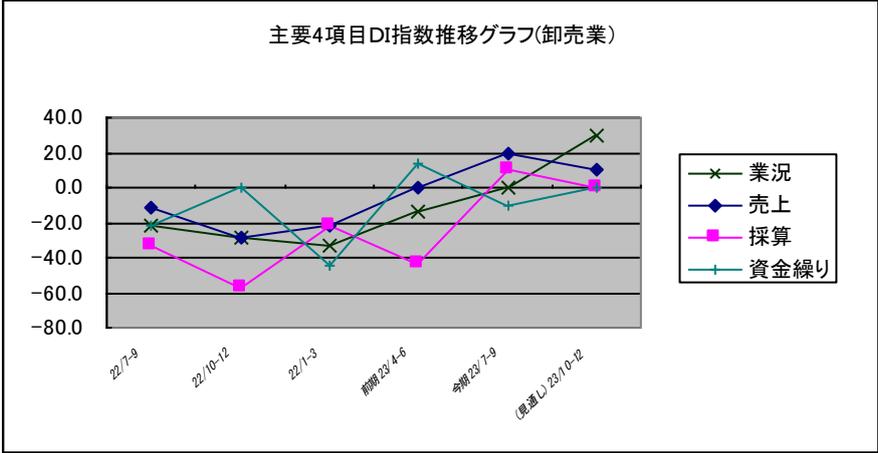
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲30が今四半期も▲30と悪化が続いている。「売上」は前四半期の▲20から今四半期▲30と減少が続いている。ただし「採算水準」は前四半期の+20から今四半期+40と黒字の企業が増加しており収益基盤は堅い。「従業員」は前四半期の▲20から今四半期▲30と過剰感が増している。



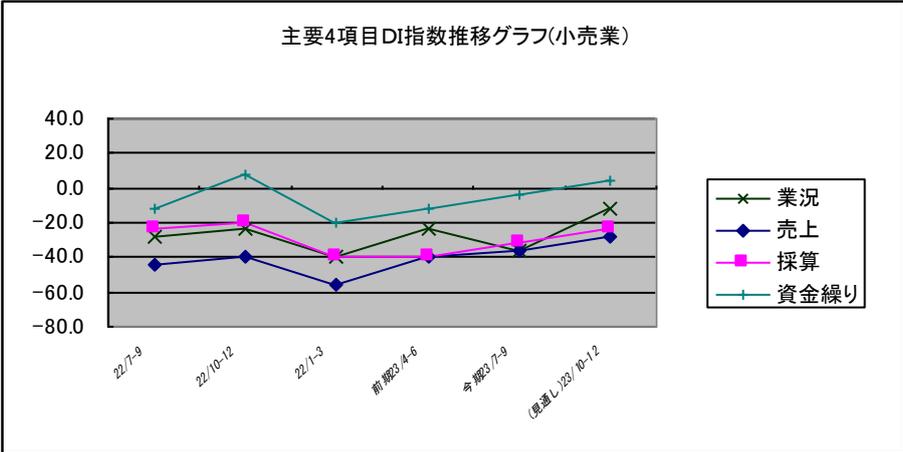
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲14 から今四半期は±0 と改善した。これは「売上」が前四半期の±0 から今四半期+30 と増加したことに加え、「採算」が前四半期の▲43 から今四半期+10 と好転し、「採算水準」が今四半期+20 と黒字の企業が増加したためとみられる。「従業員」も前四半期の▲14 から今四半期±0 となり過剰感がなくなった。



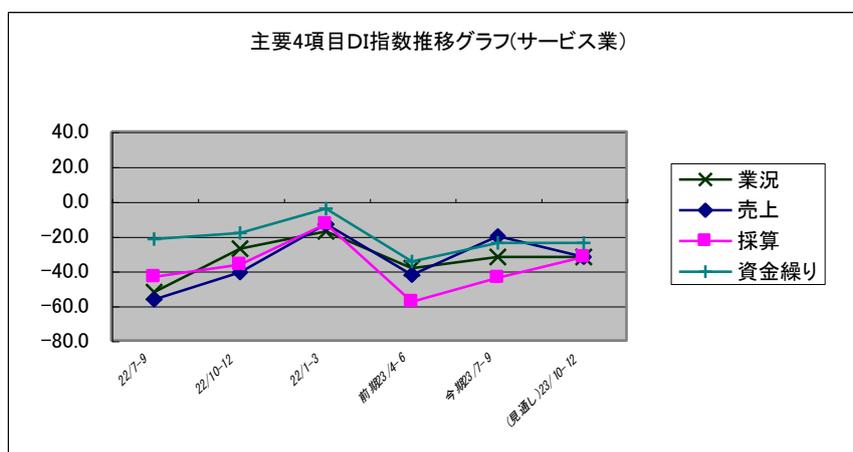
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲24 から今四半期は▲36 と悪化した。これは「売上」は前四半期の▲40 から今四半期▲36 と改善し、「採算」は前四半期の▲40 から今四半期▲32 と改善したが、「取引の問合せ」も前四半期の▲32 から今四半期▲28 と低調に推移しており、全般にマイナスで推移していることによるとみられる。



サービス業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲39から今四半期は▲32に改善した。「売上」は前四半期の▲42から今四半期▲20と減少幅が縮小し、「採算」も前四半期の▲58から今四半期▲44と改善した。「資金繰り」も前四半期の▲35から今四半期▲24と改善した。「従業員」は前四半期+4から今四半期±0と不足感がなくなった。



3ヵ月後の見通しについて全体の「業況」は、横ばいであった今四半期の▲35から▲21とやや改善する見通しをしている。「売上」は5ポイント改善して▲17、「採算」は7ポイント改善して▲29の見通しである。業種別に業況見通し判断をみると、建設業が4四半期連続▲50以下の厳しい見通しをしている。サービス業も▲32が続き厳しい見通し。一方、卸売業が+30と好転すると見込んでいるのははじめ製造業・小売業は改善を見込んでいる。ただし、円高の長期化や海外経済の減速、電力問題といった不安材料があり、先行き不透明感がなお強い。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は前四半期の15%から2ポイント増加して17%となった。製造業が30%から40%に増加した。投資企業の投資内容の割合は更新投資が38%で最も多く、合理化・省力化投資が25%、生産力増加投資が19%であった。投資方針は、「今後の景気により見直す」とする企業が前四半期7%から今四半期27%に増加した。景気の先行き不透明感が強い中で投資方針を柔軟に変更してリスクを回避しようとする企業行動の表われとみられる。

(MBA・中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

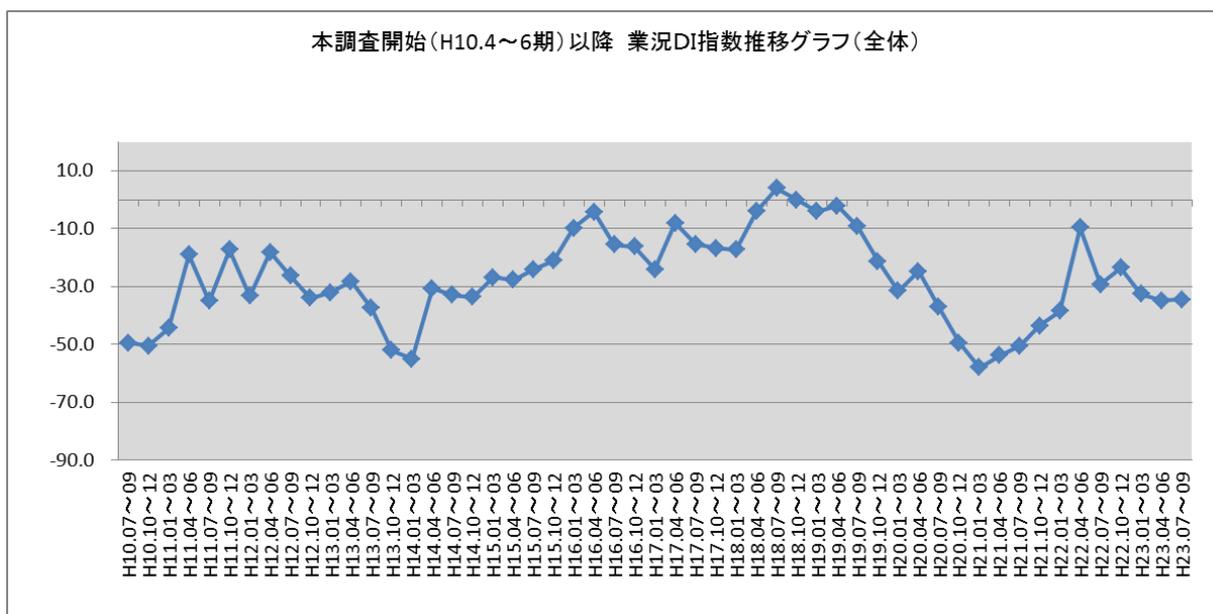
今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は8社であった。

- ・現状の目線の低い政治には辟易している。成長戦略を明確に打ち出し、経済の方向性を高らかに宣言して欲しい。
- ・①スマートフォン、タブレットの普及による消費行動の変化が予測難しい。②原材料価格が上がるが、売価に反映できない状況。③保険料、税金その他公共料金が上がることでの経費増が社員数を減らす(固定費を減らす)→サービスの低下の悪循環を生む。
- ・先月、商店街振興組合を通じて中小企業庁の実態調査がありました。年間売り上げ等細かい数字を記入しなければなりませんでしたが、その後商店街の方で集められましたが、もちろん無記名でしたが、身近な方に細かい売上、利益等の数字をそのまま見られると本当の事は書きづらくなります。封をするか何か良い方法を取られる様お願いします。
- ・やはり、地震で、お客様の消費意欲が夏の暑さも有り低調で、仕事量が減少している。
- ・官公需要がほとんどないので、どのようになっているのか聞きたい。
- ・震災以来、滋賀県内の受注が厳しく他府県への進出をやむを得ずせざるを得ない状況です。経費もかかり、利益率も低い、しかたのないこと。東京周辺では、仕事とどぎれることなくあるとのこと。東京に本格的進出も視野に入れている。
- ・円高、株安で不安材料が多く、悪化懸念している。
- ・東日本大震災の先行不透明であり、今後近畿、滋賀県内にも悪影響を及ぼす。例えば予算が東日本大震災に多くが向けられ県内への配分が低下する等。

D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12月期 見通し
全 体	▲ 34.5	▲ 20.7	▲ 21.8	▲ 17.2	▲ 35.6	▲ 28.7
建 設 業	▲ 58.8	▲ 52.7	▲ 23.5	▲ 11.8	▲ 41.2	▲ 52.9
製 造 業	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 30.0	10.0	▲ 60.0	▲ 20.0
卸 売 業	0.0	30.0	20.0	10.0	10.0	0.0
小 売 業	▲ 36.0	▲ 12.0	▲ 36.0	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 24.0
サービス業	▲ 32.0	▲ 32.0	▲ 20.0	▲ 32.0	▲ 44.0	▲ 32.0
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12月期 見通し
全 体	▲ 12.6	▲ 2.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 9.2	▲ 5.7
建 設 業	▲ 47.1	▲ 29.4	▲ 41.2	▲ 52.9	▲ 29.4	▲ 23.5
製 造 業	40.0	60.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 20.0
卸 売 業	30.0	10.0	▲ 50.0	▲ 20.0	0.0	0.0
小 売 業	▲ 12.0	0.0	▲ 28.0	▲ 20.0	0.0	▲ 4.0
サービス業	▲ 28.0	▲ 16.0	▲ 32.0	▲ 44.0	0.0	8.0
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し
全体	▲ 13.8	▲ 9.2	▲ 5.7	▲ 6.9	▲ 2.3	▲ 2.3
建設業	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 5.9	▲ 11.8	5.9	5.9
製造業	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0
卸売業	▲ 10.0	0.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 20.0
小売業	▲ 4.0	4.0	8.0	8.0	8.0	8.0
サービス業	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 16.0	▲ 16.0	▲ 12.0	▲ 12.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	



大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>